

# 「私たちのくらしはどう変わるの？」

消費税が2014年4月8%にアップされ、2015年4月からは介護保険の改正に伴い介護にも、大きな負担がかかっています。暮らしにいちばん身近な消費税を切り口に税制体制はどうあるべきか、消費税の一番の問題点であると言える、低所得者への税の負担割合の高い現状への対応策をどう考えるのか、年金や医療、介護保険等を通して、私たちがより暮らしやすい社会にしていくために、社会保障のこれからについて学びました。

開催日時：2015年11月12日(木)  
14:00~16:00  
会場：北とびあ 14階 スカイホール  
参加人数：28名  
主催：東京都生協連  
協力：東京都生協連消費者行政連絡会



司会  
生活サポート生協  
中根さん



税は、身近な問題であり一番社会の難しい仕組みになっているかと思います。『税金と私たちの暮らし』社会のこれからを作っていくためにも皆さんで考え合う一つの良い学習会ですので学んで行きましょう。(開催挨拶：東京都生協連・秋山事務局長)

## 講演 『税金と私たちの生活を考える』



プロフィール  
☆三木義一先生☆

青山学院大学法学部教授  
弁護士日本の法学者、弁護士。立命館大学法科大学院教授を経て青山学院大学法学部教授。専門は租税法。博士(法学(一橋大学)東京の大学で教鞭を執りつつ、弁護士活動も行う。

消費税増税に伴い、軽減税率についてお話しを頂き、今回の消費税引き上げの背景として、日本の財政は歳入50兆円に対し歳出100兆円にものぼり、軽減税率の現状の策では逆進性は解消できないと指摘されました。還付方式による「給付つき税額控除」の方が良いとも語られました。「総所得階級別の年金保険料負担率」を示し、逆進性を問題にするのであれば、低所得者ほど負担が重くなっている年金保険料の負担を先に改めるべきと主張されました。「国民健康保険税と国民健康保険はどう違うのか」を参加者に聞き、納税対策の一つとして上げられ、中身は同じと説明しました。国内の租税回避対策として税制こそ国際協調が必要と語り、市民社会を支える大事な財源として税金の使い道をしっかり管理して行くことが大切だと話されました。

## なぜ税金を支払うの？納税の義務とは



私たちがこの日本国で生活していくために、財政を保つためのお金として、生活していくための義務ではないだろうか。

明治時代の憲法は天皇が主権であり、国民に納税の義務があると命じました。明治憲法ではその一つとして、『血の負担』(血税=兵役)を義務付けた。戦後『日本国憲法』は主権が国民に変わり、国政は国民が選んだ議員が決めています。国民は議員に国政・財政運営を委託しています。

憲法草案を出した国民が政治家に命じているので、納税の義務はありませんが、国の財政は税金しかないため、暮らしが出来なくなれば、国が潰れてしまいます。私たち国民は納税していかなければならないということです。戦後、国民の意識が理解していないまま納税の義務を決められてしまい『なぜ、税金を支払わなければいけないか』を国民がきちんと理解して行くべきと語られました。

税金以外では何があるとお思いますか、寄付もその一つです。日本海底資源等もありますが、国家予算がないため、設立のための高額資金に対しては着手出来ないのが現状のため税金が必要になります。

先生の提案で、口の字になりゼミ形式で学習会をしました。参加者も発言しやすく、意見・提案など多く語られていました。



# 『税と保険料』何がどう違うのだろう

国民健康保険税と  
国民健康保険料はどう違う  
のか？



『保険税』税金という言葉には、納める義務があると思う人が多い、滞納をすれば脱税犯に問われます。これに対して、『保険料』は税金という言葉とは違い、支払わなくても良いという観点から滞納者が多くなりました  
☆国民健康保険に加入している場合、保険税方式のほうが国保の運営側としては有利で区市町村では保険税方式を採用しているところが多いです。私たち国民（加入者側）として、保険料を納めている分には差はありませんが、滞納したときに、違いが出てくる可能性もあります。

## 主権者が国を維持していくために考えるべきこと

### ピケティの指摘

常に資本収益率が経済成長率を絶えず上回ることでまかなっていなければならない。重要な税制の役割として国民が理解すること。税制こそ国際協調が必要とされる。

1950年～1970年経済成長発達のため格差がなくなっている。その理由の一つとして、裕福層から超過税をとることで低所得者との差がなくなっていると言える。

日本の財政運営はそうとう厳しい状況に置かれている為、長年かけて財政を保つには、ますます広がって行く穴を埋めなくてはならない。そのために消費税を10%に引き上げせざるを得ないと考えられる。

本来、所得税を引き上げたい所だが、低所得の人たちにとっては苦しい暮らし（生活）になるのでこのポイントをきちんとして生活して行くようにしてあげたいです。

私たちの出す税金だから、私たちが共に理解し税金を出し合える社会として財政を作って行く仕組みを変えて行き、税に対する嫌悪感をなくし意識を変えて行くことが必要です。

この70年の重みは国民全員がきちんと受け止めて行くべきと感じます。

感じたこと、気づいたこと、学んだこと  
(アンケートや会話からの抜粋)

問い「おじいちゃんが通帳を残していました。本人名義5億円、おばあちゃん名義2億円、お子さん名義2億円。さて皆さんはいくら申告しますか？」お爺ちゃんの方5億円、全部の9億円。おじいちゃんおばあちゃんの方で7億円。さて皆さんはどうしますか？

おもな声

- ・たっぷり貰えたからそれだけでうれしい
- ・お爺ちゃんに預けておいた。
- ・お爺ちゃんから貰ったので税金はかからない。

答え

- ☆自分が稼いでお爺ちゃんに預けておいたものではなく、今回の場合は亡くなってから子供名義の通帳が出てきたので、3人分の合計金額9億円の遺産申告が必要となります。
- ☆今回のような場合、自分名義の通帳だからと申告をしない人が多いですので、税理士の方は、必ず再確認し脱税にならないよう心がけています。



暮らしやすい社会づくりになるよう

主権者は選挙に行きましょう。

- ・税金は何かのためにあるのかという本質を分からせるおはなしでした。
- ・軽減税率を実行することが、低所得者層対策にならないことが分かった。
- ・自分も年齢とともに低所得者になり、よくよく聞くと軽減税率を導入しても、被害をこうむるのは低所得者であり、富裕層との格差は進むばかりだと分かった。
- ・年金は税と同じことに、何故今まで気づかなかったのかと思いました。
- ・子どもを増やして行くことで、社会をも保てる。幸せな暮らし（生活）をしていくためにも、国が本当に考えて欲しい。
- ・政治家の選び方、見きわめ方が大事なのだと感じた、またこの事を自分の子供に対して私なりに伝えなければならない。